

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 3年 3月 1日

事業所名 ラディアントステップ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		出来る限り床面積を広げるようにしている	通常であれば定員10名の活動スペースとしては十分であるが、コロナ渦において適切なソーシャルディスタンスを保つことには、難しさもある
	2 職員の配置数は適切である	○		配置基準を遵守し、10人の利用児に対して4人以上の職員を配置	配置基準と人数を充たし支援に当たっている。外出時等は特に気を配り支援に当たっている
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		配慮が必要な利用時には、その都度支援を行う	玄関先に階段があるため完全なバリアフリー化は構造上難しい
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		支援員間で利用児に対する対応について情報を共有している	毎日の療育ミーティングにおいて、支援方法について情報を共有し、対応を統一して支援に当たっている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年1回、保護者アンケートを行い、結果を基に業務改善に役立てている	アンケート結果を真摯に受け止め、改善に努めている
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		自己評価、保護者アンケートを3月にHP上にて公開している	自己評価結果、保護者評価結果を毎年3月にHP上にて公表している。アンケートは100%回収出来ている
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	社内において他施設の職員による評価、アドバイスをを行っている	第三者による評価は実施していない
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		社内研修は毎月行っており、学びの場を確保している	コロナ渦において社外研修は難しくなったが、リモートでの研修も増え活用している。2事業所毎の社内研修は継続している
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		契約時のアセスメントを丁寧に計画の作成に役立てている	アセスメントの内容を支援員間で共有し計画書の作成を行っています。また児発管会議の中で、アセスメントの問い直しの時期を模索中(小6・中3・高2など)
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		使用している	丁寧な聞き取りを心掛けている。また小6、中3、高2時にアセスメントの取り直しを行う事をラディアント各事業所の児発管間で検討を行っている
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		支援員全員で立案に携わっている	コロナ渦において外出や食育への取り組みが難しくなった。外出は、密にならない屋外へ、食育は職員で調理を行い個食とし、栄養について学ぶ等の工夫を行っている
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動がマンネリ化しない様に心掛けている	活動の中には、繰り返し行う事で効果を得られるものもある為、その効果を大切にしながら、少しずつ変化を付ける様に工夫している
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日と休日で活動内容を工夫している	平日は、運動、生活、学習に関する内容をバランスよく組み入れ、休日は、外出、食育、時間をかけた作業等を行っている
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		集団療育と個別活動を上手く組み合わせ支援している	基本的に療育は集団で行っているが、取り組みの内容やレベルは個人に合わせて設定し、集団活動においても個別の目標を達成出来る様支援を行っている
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日療育ミーティングを行っている	どの様に療育を進めるかについて、当日の療育リーダーが中心となり全員で把握するよう伝達している
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		送迎終了後、1日の反省を行う	送迎にかかる時間が距離によりまちまちであるため、反省会が出来ない場合でも、気になった事はその都度共有出来る様にしている
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		連絡帳と活動日誌、ミーティングノートに記録を行っている	連絡帳には、活動への取り組み、精神状態、意欲等について詳しく記すようにしている
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングを行い、計画の見直しを行っている	定期的なモニタリング以外においても、支援相談員とよく連絡を取り合い、取り組みや問題点について連携している
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		利用児の成長、自立を目指す支援を行う	ガイドライン総則の基本活動を常に意識して活動計画を作成している

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		基本的に児童発達支援管理責任者が参加している	担当者会議の日程が決まり次第、事前に支援員間で意見交換を行い、偏りのない評価が出来る様に工夫している
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		主に学校への送迎時に、利用児の学校での様子や取り組みについて担任から情報を提供して頂いている	各学校の年間計画を4月に収集し、土曜授業や行事、振替休日について把握を行っている。コロナ禍においては、学校の予定が変更されることが多かったが、学校再開日、再開の仕方(分散登校)について正確な情報を入手し、感染対策による学校独自の引き渡し方等について適切に対応出来た。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		現在、医療的ケアを必要とする利用児は居ない	食後の服薬などは、保護者と十分に情報交換を行い、適切に与薬出来る様になっている
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		スマイルブック(大垣)や就学前の記録の提出を御願している	保護者のご理解の元、利用児をよく知るという観点から利用させていただきたい
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		弊社生活介護を「スケッチ」と連携を密にし、情報提供を心掛けている	弊社スケッチのみならず、他事業所を利用される場合においても、卒業前に情報提供を行って行く
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		発達障がい者支援センターの研修に可能な限り参加している	コロナ禍において、対面での研修会は実施されなかったが、リモートにて可能な研修に参加した
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		障がいの無い子供達との交流は、出来ていない	お出掛け先での遊具の貸し借りなど、言葉を掛け合うことでの交流はあるが、積極的にそういった場を設ける事は出来ていない
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		参加の案内があった場合は積極的に参加している	コロナが落ち着いたら、対面での研修に参加していきたい
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		自宅への送迎に際し、子供の姿を伝え合い共通理解を図っている	連絡帳でその日の利用児の様子を伝える中で、頑張った事や課題と思われる事等を伝え、子供の姿や取り組みについて共通理解を図っていききたい
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		基本的な生活習慣に関わる物、誤学習への対応について行った	排泄の自立、箸の持ち方、朝食の摂取の有無、不登校へのアドバイス、誤学習に対する対応等について個別に助言を行った
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約の際、十分に説明を行っている	内容に変更が生じた場合は、その都度訂正している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要な助言を行っている	様々な相談に対し、相談しやすい雰囲気作りをはじめ、家族と寄り添いながら一緒に、実現可能な対応策を考えています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		令和2年度は、コロナの影響により開催できなかった	毎年1回保護者会を開催して来たが、今年はコロナ禍において開催できなかった。現在、新たな開催の仕方を検討中
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情等があった場合には、全職員と共有し原因や解決策を話し合っている	苦情(ご意見)があった場合は、全職員にオープンにし原因や今後の注意点について話し合います。謝罪が必要な場合は、迅速に謝罪に向き誠意をもって謝罪を行い、事後の報告を行い、記録を残すようにしています
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月発行の新聞とブログの更新を行っています	毎月発行の新聞と活動内容をブログであげています。今後も充実した内容となる様工夫を行います
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報の取り扱いには十分に注意しています	今後も個人情報の管理に細心の注意を払いたい
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		利用児にも保護者にも分かりやすい伝達を行っている	必要に応じて利用児に分かりやすいツールを用いて意思疎通を行っている。また保護者に対して、連絡帳だけで難しい場合は、さらに電話にて分かりやすく伝えている
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		当事業所においては行っていない	積極的な交流は、行えていない

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	全ての対応マニュアルを作成している	全ての対応マニュアルを作成し避難訓練を利用児ともに行っているが、保護者に対して周知と言う点では徹底は出来ていない。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	年間2回、火災、水害、通報訓練を実施している	今後も継続して行っていく
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	全職員対象の虐待防止研修会を実施している	今後も社員研修として虐待防止やアンガーマネジメントについて研修を行って行きたい
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	現在、対象となる利用児はいない	やむを得ず身体拘束が必要となる場合には、きちんとした手順を踏み、さらに日々の様子を保護者に伝える事を行いたい
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	アセスメント時にアレルギーについて確認している	昨年、アレルギーとてんかんについて新しいチェックシートを作成し全利用児について再提出を実施した
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ヒヤリハット、事故報告書を作成し共有している	ヒヤリハット並びに事故報告書に該当する案件が起きた場合は、内容について職員間で共有し報告書を作成、同時に管理職に提出し意見をもらっている